

大手門と桜門橋

大手門は姫路城の正面入り口である。以前は全く違った構造であった。中庭で仕切られた観音開きの2つの城門の上には立派な見張り番の詰所が載せられていた。元々の城門は明治時代（1868-1912）に取り壊された。当時、この城は帝国陸軍の基地として使われており、近代的な乗り物を邪魔しない広い通り道が必要だったためである。

現在の城門の歴史は1937年にさかのぼる。「高麗門様式」の構造で、対になった補助する屋根が門の内側に開けられた城門を保護するような形で直角に伸びている。高麗門は文字通り「朝鮮の門」という意味であるが、朝鮮半島とはあまり関係がないデザインで、異国情緒を感じさせる言葉として使われていたと思われる。城門は堀に架かる桜門橋に面している。この橋は江戸時代（1603-1867）の図面を元に2007年に再建されている。